

## 〈佐平と定蔵〉

150年ほど前、馬場佐平、馬場定蔵という二人の若者が、伊南川から水を引く方法を考えました。佐平は、へつりの岩にトンネルをほって水を引く計画を立てて、村の人たちと相談しましたが、費用のことなどで反対する人がたくさんいました。

それでも、毎ばんおそくまで相談し、佐平と定蔵の二人が責任者になり、工事を始めることになりました。

## 〈むずかしい工事〉

トンネルをほるためには石切りをしなければならず、たいへんむずかしい工事でした。村の人たちも協力しましたが、田植え時になっても完成しないので、反対した人たちは、成功をうたがいました。

しかし、佐平や定蔵たちがいっしょうけんめいだったので、宮床の人だけでなく、界の人たちも協力しました。代官所も工事に費用をかしてくれました。

そして、弘化4年（1847年）7月2日、ついに、伊南川の水が音を立てて、村の中の用水路を流れ始めたのです。

工事は3年もかかり、費用ははじめの計画の3倍以上もかかりました。

佐平と定蔵の仕事をたたえる記念



▲今も残るトンネル（宮床）



▲宮床用水路